

1. ～3. は検証済み。4. ～13. は未検証。

暴動評価基準は文末に掲示。

1. 5/12、13の両日、江蘇省南京市和燕路で、会社閉鎖に不満の従業員1000人余がデモ。 **暴動レベル0。**

・マスコミ情報：5/12、13の両日、南京市玄武区恒嘉路にある華飛彩色顕示系統有限公司の従業員1000人余が、会社閉鎖の際の退職金などに不満で、市政府に陳情と抗議を行うため、和燕路をデモ行進した。市政府は警察1500人を出動させ、道路を大型コンテナで封鎖し、これを紅山路付近で強制的に解散させようとしたためデモ隊と衝突、デモ隊側の数人が負傷、数人が拘束された模様。この騒動のため南京市中心部は一時、交通が麻痺した。 《当日の様子：ネット上から転載》→



・実情：華飛彩色顕示系統有限公司はブラウン管を製造会社であり、最盛期は2700名(7000名という報道もある)ほどの従業員を抱える大工場であった。しかしテレビなどが液晶化に向かい、ブラウン管の需要がまったくなくなり、昨年末で累積赤字が22億元、負債総額が13.5億元となった。今年3月、華飛会社は営業を中止し、会社閉鎖に伴う従業員との交渉に入った。会社側は、勤続年数を基準に、1年当たり2960円を支払うと発表した。従業員側はそれに不満で会社側との交渉の場を求めている。しかし会社側がそれに応じないため、市政府に陳情するため、デモを行うことにしたという。



5/13以降、市政府はこの争議に介入し、5/24までに会社側の提案を受け入れる従業員については、特別に1.5万円、勤続年数によって1年当たり500円を加算し支払うことを約束した。

私が調査に行った5/25時点では、華飛会社には人影は少なかった。門前の告示版を見ていた従業員の様子を聞いてみると、工場内にはほとんど人がいないと言い、「市政府が入ってきたので、卵と石が喧嘩するような状態になってしまい、従業員はバラバラになってやめていった」と話してくれた。



・私見：昨年来、会社の閉鎖時に、会社側と従業員側が揉めるケースが多く見られる。会社側が労働契約法に準拠し閉鎖しようとしても従業員側が納得しない場合も多く、代表者がそれを避けるために行方をくらます、つまり夜逃げすることも多い。下記もその一例であり、残された従業員たちは、多くの場合、所轄政府や労働局に陳情・抗議に行くことになり、政府側は対応に苦慮している。

※4/13、上海市長寧区愚園路にある上海奥客文化传播有限公司の代表者夜逃げ。

上海市長寧区愚園路の緑地商務大廈に事務所がある上海奥客文化传播有限公司では、4/13朝、従業員が出社したところ、事務所の中は泥棒に荒らされたように散らかっていた。すでに金目のものはまったくなく、前夜のうちに、代表者が夜逃げしたことがわかった。残された19名の社員は3月から給与を受け取っておらず、途方に暮れている。



《夜逃げ後の室内の様子》

※中国政府の人力資源・社会保障部は、このほど2010年度の企業の賃金未払いが、判明しているだけでも99億5千万円(約1254億円)に達し、その対象となる従業員数は502万1000人と発表。

2. 5/04、上海市政府前で、数千人の民衆が抗議。 **暴動レベル0。**

・ネット情報：5/04、上海市人民大道にある市政府前で、さまざまな要求を掲げた民衆数千人が抗議活動を行った。中には新疆人もいたという。また同日、普陀区の区政府前でも100人近い住民が強制立ち退きに抗議して集まった。

・実情：市政府周辺の人に5/04の様子を聞き込んだところ、たしかに当日、200名ほどの人が陳情に來たし、秩序維持のため警察が出動したが、数千人というのはオーバーであるという。また陳情の内容もいろいろで、強制立ち退きの補償費や市政府の政策への不満などがあつた。また一部では新疆の人たちが抗議に來ていたと報じられていたが、それは新疆人ではなくて、かつて新疆へ建設兵団として派遣され、その地で20～30年働いていた上海人が、上海に住み続けていた人たちと同様の医療保険や年金などの待遇を求めて抗議に來ていたのだという。当日、実際に抗議をしていた人は200人ほどで、そのとき野次馬も含めると市政府前には1000人ほどの民衆がいたという。また市政府は、月・水・金と陳情者の受付を行っており、いつも100人前後の民衆がそこに來ているという。

3. 5/13、江蘇省連雲港市灌雲県侍荘郷の立ち退き現場で爆発事故、3人死亡。 暴動レベル0。

・マスコミ報道 : 5/13午前、連雲港市灌雲県侍荘郷陸荘村で、地元政府が村民の陸増羅の家屋を強制的に立ち退かせていたところ、ガス爆発が起き、本人と家族の3人が死亡した。マスコミでは抗議の自殺と報じた。

・実情 : 同集落では昨年、その一帯の村の4~500世帯が開発のため強制移住させられた。昨年11月、補償金などに不満の村民が服毒自殺しており、強制立ち退きは一時的に中断していた。そこには12~3戸が移住反対で居残っており、今回の事件はその中の一軒で起きた。陸増羅が強制立ち退きに頑強に抵抗したので、立ち退き実施者との間で殴り合いとなり、殺された模様。その後、その付近にガソリンが撒かれ、証拠



↑《 爆発のあった場所 》

の隠滅が図られたのではないかと。なお、その後、地元政府から陸一家に弁償金160万円が支払われたという。

・私見 : 灌雲県侍荘郷陸荘村の事件現場には、臨時に建てられた家屋のようなものが10軒ほど建っており、陸増羅の家屋は明らかに補償金増額目当てのような臨時建造物であった。そこにはガス爆発の形跡はなく、ガソリンで焼けたような跡が残っていた。道端で瓜を売っていた老婆に聞いてみたところ、「私も土地を取り上げられたので、今では少し離れたところで土地を借りてこの瓜を作っている。陸さんは小さい息子の分まで生活保障をのぞんでおり、ちょっと欲が深すぎた」と話してくれた。これは土地収用で大儲けを企む地元政府の役人と、農民の欲ボケ・ごね得が生んだ悲しい事件である。

灌雲県には超高層マンションがあちこちで建設中であり、超豪華な県庁舎、都市計画館、博物館などが国道沿いにズラリと並んでおり、土地売却収入財政で成り立つ見本県のように見受けられた。

4. 5/05、四川省遂寧市射洪県で、中学校教師が殺人犯と誤認され逮捕、同僚ら1万人が抗議。 暴動レベル0。

・ネット情報 : 5/04、遂寧市射洪県射洪中学の教師の余輝氏が警察に殺人犯として誤認逮捕された。逮捕時に余氏は暴行を受け、重傷を負った。回りにいた教師たちや民衆が制止に入ったが、警察はまったく相手にしなかったという。100名ほどの同僚教師たちが、県政府までデモをして、事態の徹底調査を訴えた。翌日、当局は誤認逮捕であったことを認めたが、同僚教師や民衆は警察の厳重処分を求め、再び県政府にデモを行った。その数は1万人に及んだという。なお、公安局が当該警察官の職務停止を発表したので、デモ隊は夜11時には自主的に解散した。

5. 5/11、湖南省衡陽市衡東県で交通警察の暴力に民衆1000人が抗議。 暴動レベル1。

・ネット報道 : 5/11午前7時40分ころ、衡陽市衡東県の県城衡岳北路と交通路の交差点で、取り締まりに当たっていた交通警察が、退役軍人の曹氏を無免許運転と勘違いし、バイクを没収しようとした。それに抗議した曹氏を交通警察が殴打したので、近くで見ていた民衆が集まって抗議をした。その数はすぐに1000人ほどになり、パトカー2台をひっくり返すなどの騒ぎとなった。なお曹氏は意識不明となり、病院に運び込まれた。

なお衡陽市では、交通警察がささいな交通違反をみつけて罰金を取る事が多く、取り締まりが彼らの金儲けの手段になっているとうわさされており、年収が10万元に及ぶ者もいるという。

6. 5/13、甘肅省天祝チベット族自治県の農村信用社で爆発事件、49人負傷、19人重傷。 暴動レベル0。

・マスコミ報道 : 5/13、天祝チベット族自治県の金融機関の農村信用社で、銀行の5階会議室に元職員が手製爆弾を投げ込んだため、会議中の行員のうち、49人が負傷。うち19人が重傷。この元職員は、4月に不正行為が発覚し解雇されたことを恨んでいたという。

7. 5/26、江西省撫州市臨川区の政府・検察庁舎で連続爆発。 暴動レベル1。

・マスコミ報道 : 5/26午前、撫州市臨川区の政府・検察庁舎などの3か所で連続爆発事件が起きた。その後の警察の調査で、元農民の銭明奇容疑者が地元政府の土地収用に不満で自爆した模様。巻き添えて2人死亡、6人が負傷。自爆した銭容疑者は自らのブログで、「政府の違法な立ち退きで、巨額の損失を被った」と書き込んでおり、報復が目的であった模様。



↑ 《 ネット上から転載 》

8. 5/24~31、内モンゴル自治区シリンホト市などで、モンゴル族がデモ、治安部隊と衝突。 暴動レベル1。

・ネット情報 : 内モンゴル自治区シリンホト市郊外で、モンゴル族の遊牧民や学生ら数百人と治安部隊300人の衝突で、モンゴル族ら40人以上が拘束された。衝突は遊牧民や学生らが数百人、治安部隊が300人以上で大規模だった。負傷者がいるかどうかなどは不明。学生らが24日に数千人に及ぶ大規模な抗議行動をしたと伝えられた市内では、

治安部隊と軍が道路などを封鎖。学校では、学生が外出しないよう週末も授業を続けているという。その後、ネット上などで、内モンゴル自治区の区都フフホト市で30日に抗議行動をするよう訴える呼び掛けも出回ったが、同市内の大学などの出入りが禁止になったりして、武装警察の厳戒態勢を敷いた結果、大きな騒動は起きなかった。抗議行動は、遊牧民のひき逃げ事故死に対する当局の対応への不満がきっかけとされている。内モンゴル自治区党書記は将来の党総書記と目されている胡錦濤氏直系の胡春華氏であり、学生と直接対話し事態の沈静化に努めているという。

- ・私見：モンゴル族のデモは、チベット族やウイグル族の暴動レベル5級の大暴動とは違い、今のところ、「漢族の横暴→モンゴル族の漢族への復讐・略奪・暴行→モンゴル族への大弾圧」という最悪の事態にはなっていない。これは政府側が早期に万全の警戒態勢を敷き、暴発を未然に防いだという見方もできるが、他の要素も十分に考えられるので、慎重にウォッチングを続け、続報をお届けする予定である。



↑ 《 ネット上から転載 》

9. 5/28、広東省惠州市古塘坳工業区にある米中合弁企業で従業員1000名余がデモ。 **暴動レベル0。**

- ・マスコミ報道：5/28、惠州市にある米中合弁の唐徳電子有限公司で、工場閉鎖に伴う補償金が不満の従業員1000名余がデモを行った。参加者らは問題が解決しなければ、広州市の米国総領事館に抗議に行くと話している。なお当企業は、電話機や音響設備などを生産していた。

10. 5/30～31、天津市塘沽区で、ウイグル族と回族が衝突。 **暴動レベル0。**

- ・5/30、天津市塘沽区で、回族の経営する飲食店がウイグル族に襲われ、店舗などが破壊された模様。数百人の武装警察が出動して、警戒に当たっている。回族側は犯人のウイグル族を逮捕するように、派出所に抗議。

11. 4/12、四川省成都市新都区龍城鎮で、土地問題を巡り警察と住民1000人余が衝突。 **暴動レベル1。**

- ・ネット報道：4/12午前、成都市新都区龍城鎮瑞雲区の住民1000人余が、立ち退きを巡って、その補償費が少なすぎるため県政府に抗議に行ったところ、武装警察がバス20台あまりで駆けつけ、抗議していた住民を殴ったりして解散させた。20名ほどの住民が警察に連行され、4名がその後も拘留されている。その他多くの住民が逮捕を怖れて帰宅せず身を隠しているという。

12. 4/20、四川省重慶市江北区魚嘴鎮樓房村で土地収用を巡って、村民と警察が衝突。 **暴動レベル2。**

- ・マスコミ報道：4/20、重慶市江北区魚嘴鎮樓房村で、現地政府による土地収用をめぐる警察や暴力団風の男たち1000人余が村を襲い、村民に暴行を加え、村民30人以上が重軽傷。事件発生後、村民数千人が鎮役場に押しかけ、事態の究明と実行犯の処罰を求めた。重慶市は内陸部における最大級の港の建設を計画しており、魚嘴鎮樓房村の土地はその建設区域にあたり、収用対象となっていた。政府からは2008年度に補償金額が提示されていたが、あまりにも低額なため村民との間で、合意には至っていなかった。

13. 4/22、北京市房山区青龍湖鎮で、工場取り壊しに反対の工場従業員50人が火炎瓶で闘争。 **暴動レベル0。**

- ・マスコミ報道：4/22、北京市房山区青龍湖鎮にある「羅之星」と「興華コンクリート」の2社の従業員50名ほどが、「違法建築」という理由で、取り壊しにきた政府関係者や500人ほどの作業員を相手に、火炎瓶などを手にして反抗した。双方のにらみ合いは数時間続いたが、結局、政府側があきらめ、その日は撤退したという。その後、2工場は停電、断水状態に陥っている。

※中国政府は今年1月、住民の強制移転を禁じ、移転の是非を地方の司法当局の決裁に委ねるよことの新条例を出した。しかし強制収容とそれにまつわる事件が後を絶たず、5月下旬、國務院は地方政府に新条例の実施状況を調査するように命じた。

《 私の暴動評価基準 》

暴動レベル0：抗議行動のみ 破壊なし

暴動レベル1：破壊活動を含む抗議行動 100人以下(野次馬を除く) 破壊対象は政府関係のみ

暴動レベル2：破壊活動を含む抗議行動 100人以上(野次馬を除く) 破壊対象は政府関係のみ

暴動レベル3：破壊活動を含む抗議行動 一般商店への略奪暴行を含む

暴動レベル4：偶発的殺人を伴った破壊活動

暴動レベル5：テロなど計画的殺人および大量破壊活動

以上